

令和7年度 第2回小松市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和7年11月7日（金）
開会 午前9時00分 閉会 午前10時00分
- 2 会 場 小松市役所3階会議室
- 3 出席者 小松市長 宮橋 勝栄（議長）
小松市教育委員会
教育長 山本 民夫
委員 中惣 恭子
委員 村井 啓介
委員 浅藏 一華
委員 表 幹也
- （事務局関係）
- | | |
|---------------------|--------|
| 総合政策部長 | 藤井 勝司 |
| 総合政策部 総合政策課長 | 太田 司 |
| 総合政策部 総合政策課主査 | 秋野 力 |
| 教育委員会事務局 事務局長 | 長谷川 巍 |
| 教育委員会事務局 教育庶務課長 | 中川 久美子 |
| 教育委員会事務局 学校教育課長 | 新名 孝 |
| 教育委員会事務局 教育研究センター所長 | 中田 一宏 |
| 教育委員会事務局 生涯学習課長 | 中屋 清志 |
- 4 討議事項
- ・部活動地域展開について
 - ・不登校対策について
 - ・学校給食について
- 5 会議の経過及び発言
- 開 会
- 宮橋市長あいさつ
- ・本日の議題は、部活動の地域展開、不登校対策、そして学校給食の3点で、いずれも子供たちの心と体の健やかな成長を支えるために大切なテーマであり、教育行政においても、優先度が非常に高いものだと思っている。
 - ・生きづらさを感じる子供たちには様々な要因があると思うが、そういった子供たちに対しどのように学びの保障をしていくかということを考えたい。
 - ・忌憚のないご意見をいただきながら、課題解決への道筋を立てていきたい。

○討議事項 1

- ・部活動地域展開について

＜議長＞

- ・議題「部活動地域展開」について説明をお願いしたい。

＜教育委員会事務局 長谷川事務局長＞ (別添資料に基づき説明)

＜山本教育長＞

- ・運動部についての説明だったが、文化部も次年度以降順次移行していく予定。

＜議長＞

- ・現状と目に見えている課題というところでの説明でしたが、それも含めて皆様のご意見を伺いたい。

＜中惣委員＞

- ・メリットとデメリットが本当に明確に出てる。メリットの1つとしては、教員の負担が減ることで、子供たちが将来教員になりたいということが増えるのではないか期待をしている。
- ・デメリットとして、保護者の負担も大きな問題であるが、完全に地域移行した後、何割の子供たちが希望した部活に入るのかということも危惧している。
- ・心身ともに大きく発達する中学3年間が無駄にならないよう、慎重に進めていただきたい。

＜村井委員＞

- ・計画訪問で学校を訪問するたびに、生徒数が非常に少なくなってきたおり、学校単体での部活動運営が厳しくなっていると身をもって実感している。
- ・部活動が学校の先生方にとって負担になってることは間違いないと思うが、一方で部活指導にやりがいを感じている先生もいるので、一概に学校から地域にというよりは、ミックスで考えてもよいと思う。
- ・具体的なやり方については、地域展開、地域連携、それぞれ種目ごとに掲げられているが、「モデル種目」「進めやすい競技」に特化して、成功事例をいくつか作り拡大していくことがよいと感じている。
- ・さらに、昨年から国体は国民スポーツ大会に、2018年から日本体育協会も日本スポーツ協会になった。長く続いた体育という位置付けから世界共通のスポーツという名称に変わったことで、スポーツそのものを楽しみながら成長していくところを、学校の先生だけではなく民間も含めて携わっていくことが理想と思う。

＜浅蔵委員＞

- ・小規模校の子供たちが「部活動をやりたい」「活動を選べる選択肢が増える」ことはとてもよいことと思う。
- ・今後、地域展開を進めてほしいとは思うが、野球やサッカーなど、市の大会を開催できるだけのチーム数が維持できるのか。大会がなくなると目標がなくなることにもなり、いきなり県大会というのも何か寂しいと思う。
- ・指導者について、完全に民間に移行していった場合、民間の指導者だけにすべてを任せてしまうのか、指導はしなくとも顧問などの教職員が間に入っていくのかという点も懸念される。
- ・民間の指導者に完全に任せたとき、子供たちに対する不公平感や練習時だけがの責任問題などをクリアにしないと問題が出るのではないか。
- ・また、小学校低学年や保育園に通う子の保護者から、自分の子が中学生になったときにはもう部活動ないかもしないと、受け入れている感じがあった。私自身、中学生になったら部活に入るものだと思ってるが、今後部活がなくなる可能性があると思っている保護者もいて少し寂しく感じる。

＜議長＞

- ・事故あったときなどの体制はどうなっているか。

＜長谷川事務局長＞

- ・事故については、地域連携もしくは部活動そのものであれば、保険はスポーツ振興センターから出ることになるので、基本的には学校の管理下ということになる。
- ・地域展開による地域のスポーツ団体の活動は対象外のため各競技団体で保険に入るよう話をしている。
- ・また、指導者から教職員が抜けて外部指導者のみになるということではなく、先ほど話があった通り、部活動の指導をしたいという先生も一定数いる。アンケートの結果3割程度いたので、その方々には兼職兼業を届け出てもらい、平日は部活動の顧問、土日は地域スポーツ団体の指導者として、指導の形は変わらないといった方法をとっている。
- ・手法のところで、地域連携と地域展開ということで、野球は地域移行で行っている。地域連携、地域連携+地域展開でも、既存の部活動の枠を維持したいと考えている団体もある。競技スポーツだと、例えばバスケットボールはポジションが決まっているので全く違うチームに行っても練習がしにくい、そのため競技団体からは平日のチームをそのまま土日にも持っていく声もある。今後、担い手や運営するスポーツ団体との協議になるが、競技ごとにチームの作り方があるので、それに合わせて進めていきたいと考えている。
- ・例えば、中学では別の競技をし、土日だけ部活と別のハンドボールをやりたいといった場合、チームに入っていくことが難しい状況にあると思う。子供たちの機会の確保

という観点からいうと、ある程度間口を広めていかないといけない部分もある。逆に平日の部活動を広げていきたい場合もあるので、平日のチーム単位を土日に活かす方法も考えている。

- ・土日も平日の部活動をそのままスライドさせて同じ単位で活動したいという要望についても、平日にしたときにもう一度整理されると思っている。

＜表委員＞

- ・場所の確保と送迎の問題が大きいと感じている。
- ・実際、昨年まで3年間地域部活動という形で、週3、4回と土日に試合があれば子の送迎をしていた。学校の部活動であれば自転車での移動等だが、地域活動では送迎が必要。家庭環境などにより送迎ができない子たちは参加できないことになるため、送迎を何とかできないかと思う。
- ・指導者という点では当然大人がいると思うが、大学生も関わると良いと思う。エネルギーッシュな大学生と関わることによる相乗効果も期待できないか。
- ・地域展開の現状について、確定していないことも含めて伝えていく必要があると考える。

＜議長＞

- ・過渡期の中で試行錯誤している部分もあると思うので、活動や送迎、指導者の問題、様々な費用など、今後の国の動きを見ながら取り組んでいかなければならない。
- ・中学時代に何かに打ち込める経験は非常に大事な部分だと思う。それが部活動なのか、或いは社会教育的な形を含めた何かなのか。本日まずは環境整備などのご意見をいただいたということで、次の議題に移らせていただく。

○討議事項2

- ・不登校対策について

＜議長＞

- ・議題「不登校対策」について説明をお願いしたい。

＜教育委員会事務局 長谷川事務局長＞ (別添資料に基づき説明)

＜表委員＞

- ・一時的な不登校もあると思う。無理に行かせないことがその子を救うことになるかもしれない感じもある。

＜議長＞

- ・その一方で、学びの保障をどうするかというところ。

＜浅蔵委員＞

- ・不登校の理由は学校だけでなく、家庭の中にあることもあるのではないか。そんな中で、家にずっといるのもよくないことだと思う。学校以外の施設など、保護者に選択肢を与えることも大切。
- ・保護者がいち早く先生に相談できるよう、学校はどのような対応を行っているのか。

＜中田教育研究センター長＞

- ・先生から当センターを通じて専門の方にお願いするケースと、保護者が当センターに直接問い合わせて学校の了解を得た上で一緒に見ていくケースの2つがある。
- ・不登校になる前段階で、専門家などが判断するということを実施している。

＜長谷川事務局長＞

- ・原因はいくつもある。学業不振や生活態度の他に、クラスの人間関係や先生との折り合いという部分があったときに転校をすることも柔軟に今年度から認めるようにしている。

＜村井委員＞

- ・不登校増加の背景に、コロナウイルスによる生活の乱れ等もあるが、昨今はスマホやネット環境があふれる中での睡眠の質の低下も問題があると思う。国府中学校では昼寝の時間を作っている。些細なことかもしれないが、すごくよいことだと思う。
- ・特化した取り組みは横展開し、他の学校にも共有し効果検証できれば、生活環境の乱れは少しずつ改善していくと思う。
- ・家庭にも問題があることを重々承知の上でお伝えするが、学校の先生の観察力の差を感じる。例えば中学校は教科ごとに先生が変わるが、先生によって同じクラスとは思えないほど生徒のいきいき度が変わるときがある。
- ・子供たちは楽しければ学校に行くと思う。生徒と先生との一体感というか、目線を合わせることも大事だと思う。
- ・先生の素晴らしい取り組みや発言、観察力など、モデルとして部活の地域展開と同じく事例を広めて、先生方の質の底上げを図っていくのもいいのではないか。

＜中惣委員＞

- ・計画訪問で授業を拝見すると、タブレットで遊んでいたりする生徒が目立つ教室もあれば、先生が一人一人に目を配って声掛けする教室もあり、かなり差があると感じる。
- ・子供たちは自分のことを見てくれているということを敏感に察知するので、先生がちゃんと見ていることを示すことが大事。相談もしやすくなると思う。
- ・市内の小学校では髪型や服装などは緩やかな規則になっていると思うが、それが中学校に上がると急に制服になり校則も厳しくなる。この急な環境の変化に戸惑い、ついていけない子供も少なくないのではないか。小学校と中学校の規則の連携などができる

ないかと常々思っている。

- ・これらが中学生の新たな不登校に繋がっているのではないかと感じている。
- ・新規の不登校という点で、部活動の地域展開でも危惧していることがある。例えば指導の過熱化により、プレッシャーや劣等感を感じてしまう子供が今よりも増えてしまうのではないかという点が 1 つ。また、家庭の事情で希望の部活動に行けなかった場合、様々な方面でやる気が失せてしまい、学校に行きたくないという思いに繋がってしまうのではないかということも危惧している。

＜議長＞

- ・各委員の発言は本当に重要なことだと感じる。学校での指導や授業の進め方、人間関係、学校の規模も影響してくると思う。
- ・家庭環境との密接な繋がり、複雑なところもあるので、何か 1 つやれば大丈夫ということではない。国府中学校の取り組みなど小さなことから、教育委員会として或いは町と市の連携の中で、福祉の観点からも必要なこともあるのではないか。
- ・場合によっては図書館などに居場所があり、学校との連携がうまくとれれば、外に出れるきっかけの糸口が見つかるかもしれない。当然、学校だけの話ではなく、福祉の観点から市全体の課題として取り組んでいくべきと考えている。
- ・将来的な学びの保障という点で、学びの多様化学校の調査研究を始めている。ふれあい教室、図書館、学びの多様化学校など、1 人でも多く外に出られる環境を作るための方策を今後検討していきたい。
- ・もちろん子供たちが楽しんで学校に行ける環境づくりが一番大事だと考えているので、そこを主に置きながら誰 1 人残さないという視点で今後も検討していきたい。

○討議事項 3

- ・学校給食について

＜議長＞

- ・議題「学校給食」について説明をお願いしたい。

＜教育委員会事務局 長谷川事務局長＞ (別添資料に基づき説明)

＜村井委員＞

- ・学校で作って温かい給食が出てくるのが、個人的にはよい。
- ・牛乳がなくなった場合、例えばお茶などになるということか。

＜長谷川事務局長＞

- ・お茶、あるいは水筒をそれぞれ持ってきてもらうなど。

<村井委員>

- ・食べ合わせなどあると思うが、栄養のことを考えると、牛乳は残してもよいのでは。

<中惣委員>

- ・給食はすごくおいしいと聞いており、実際に試食して本当においしいと思った。
- ・牛乳とご飯、教育長も常々言われているが、牛乳をなくすともう一品追加できる可能性がある点はいいアイディアだと思う。毎日牛乳を出さなくても、パンの時は牛乳、ご飯のときは水筒でもよいのではないか。

<表委員>

- ・給食を楽しみにしている子供はたくさんいると思う、よくないが朝食を食べずに学校に行く子もいるのではないか。給食の質をなるべく落とさないことが必要と思う。
- ・物価高騰への対応は、施設の電気料金の高騰と同じように悩ましいところだが、かといって給食の質を落とすわけにはいかないのではないか。慎重な判断が必要と感じる。

<浅蔵委員>

- ・牛乳の分を食材費にまわせるならばそちら方がいいと思う。
- ・子供たちと一緒に給食を食べた際に子供たちの話を聞くと、朝食を食べていない子もいて、給食で補う訳ではないがしっかり食べてほしいと思う。
- ・家では食べれない献立も出るので、経費をうまく使い楽しい給食にしていただければと思う。

<議長>

- ・今回、話題提供という形でさせていただいたが、現時点で方針を決めるのではなく、給食を無償化している中で食材調達の合理的な方法が課題。
- ・本日皆さんよりご意見をいただいたが、給食は非常に大切であり、家庭ではできない地産地消をしっかりと進めるとともに、なにより学校に行くことの楽しみの1つの要因になればよいと思う。
- ・物価高騰の中でも、おいしい、温かい、栄養がある、楽しいという部分をしっかりとしつつ、様々な方法を考えていくべき時だと考える。今後よりよくするためにどうするか、かつ、合理的な部分も見据えながら、より良い給食をしっかりと目指していきたい。
- ・牛乳については、代替え食材が何かということもあり、食べ合わせもある。物価高騰でお米の価格が上がっている中、新米を出している地域はほぼない。これを継続していくようにするためにも、さらに工夫できることがないかという視点を持って今後も検討していきたい。

<山本教育長>

- ・部活動については、これまで教員が無償で担ってきたもの。その制度が地域展開で大きく変わるということで、これからも様々な課題があると思うが試行錯誤しながら進めていきたい。
- ・費用面は問題ではあるが、例えば学習塾等の月謝や送迎については、保護者はあまり言わない。今まで無償で学校がやってきた部活動の制度を変えることには、なかなか抵抗が多いのだと思う。
- ・不登校については、事前にいかに防ぐかということ。出た場合は、様々な学びの場を提供する必要があるのではないか。事前防止にも注力していく。
- ・給食については、他市から転勤してきた先生が日々に小松市の給食はおいしいと言っている。効率性や安全性を担保しながら、今後も様々な形で子供らによりよいものを提供していければと思う。

<議長>

- ・行政に携わる課題に対し、教育委員会だけでなく、我々市長部局も連携しながら情報交換をしていくことは非常に大切なことであり、総合教育会議の大きな意義でもある。これからも様々な話題について協議し、教育大綱にある「いつだって誰だって新しい可能性」を実現していけるように取り組んでいきたい。

以上

○閉会